

オンライン診療の実際 小児科

くぼたこどもクリニック院長

久保田 恵 巳

（聞き手 齊藤郁夫）

齊藤 オンライン診療の実際で、小児科領域についていかがですか。

先生が診ている疾患はどのようなものが多いのでしょうか。

久保田 オンライン診療では主に、機能性慢性便秘症と、不安やパニックなどのメンタル面で公共交通機関に乗れなくてクリニックまで来れない人を対象にしています。

齊藤 機能性慢性便秘症は、小児科領域で多いのでしょうか。

久保田 機能性慢性便秘症は、基礎疾患がなくて便秘の状態になっているお子さんを指していて、そのような方が実はけっこういると私は感じています。

齊藤 年齢は様々ですか。

久保田 乳幼児から、小・中・高校生と幅広くいます。

齊藤 生活で困るということで、患者さんから先生に連絡が来るのですね。

久保田 そうです。電話で予約を取って来ていただきます。

齊藤 初診は対面が原則ですね。

久保田 はい。初診は対面を原則にしています。

齊藤 具体的にはどのような診療になるのでしょうか。

久保田 まず便秘の状況を確認します。便秘でも、便が硬いタイプと、便の回数が少ないタイプがありますので、そのあたりを聞き取りして、あとおなかのエコーも撮ります。そして便秘日誌を2週間つけていただいて、それを確認して薬の微調整をしていきます。

齊藤 検査、生活指導、投薬もでしょうか。

久保田 最初の時点で大きな便の塊がエコーで確認できた場合はその場で浣腸して出していただいて、あとは薬を処方します。薬を処方するのは、2歳以上だったらポリエチレングリコール、2歳以下だったら酸化マグネシウムを使うことが多いです。

齊藤 生活指導はどうですか。

久保田 生活指導は、トイレトレーニングをすることが多いです。ただ、保育園や幼稚園で行うトイレトレーニング

ングとはちょっと違い、毎日、晩ごはんの後とか、朝ごはんの後にトイレに5分でいいから座ってねと。楽しい雰囲気です。トイレで座るようにしてくださいねということ、5分頑張ってみて出なかったら、すぐに諦めていいよと伝えてあります。親御さんには、もしそのときにうんちが出たら、すごく褒めてあげてねと伝えてあります。

齊藤 食事と排便のリンクを作るということですね。

久保田 そうですね。食事をするとおなか動き出しますので、食後にトイレに行くというのはリーズナブルな反応だと思います。

齊藤 食品で特別な指導はありますか。

久保田 便秘はマルチファクターですので、1つだけ頑張って、繊維のあるものばかりを食べたからといって、すぐに症状が改善するというわけではありません。食事に関しても水分摂取あと運動などについても通常どおりでいいとお伝えしています。もちろん、繊維を頑張って取っていただくのもいいのですが、特にそればかり気にするのはなくて、バランスよく規則正しい生活をしてもらえればいいと伝えてあります。

齊藤 オンライン診療をそこで入れていく場合のメリットには、どういった点がありますか。

久保田 当院は遠方から便秘の患者

さんが来られる場合が多いので、例えば長期処方希望されることも多いのです。しかし長期処方をしてしまうと、その間にリズムが崩れて便秘の状態が変わってきたり、年末年始などのイベントのときに便秘に戻ってしまったり、逆に急性胃腸炎にかかって下痢していたりなど、コントロールが崩れてしまうことがよくあります。なので、対面診療の合間にオンライン診療をして、便秘日誌を確認しながら、きめ細かにコントロールできると思います。

齊藤 対面診療の間にオンライン診療を入れて、薬のアドヒアランスを保つという流れでしょうか。

久保田 そうですね。服薬コンプライアンスが確認できるというメリットがあります。

齊藤 患者さんおよびその親御さんの感想はどういう感じでしょうか。

久保田 感想は、とてもよい感触だと思います。「では次回もオンラインでいいですか」と言われることも多いのですが、「いや、今回は対面で」とこちらからお願いする感じになるぐらいです。

齊藤 長い間困っていた人がこういったことでうまくいけると、とても感謝されて、よいということでしょうか。

久保田 そうですね。

齊藤 もう一つの柱としてはメンタ

ル面の具合が悪い人がありました。これはどういうことですか。

久保田 パニック発作だとか不安が強く、クリニックに来られない、でも、本人としては治療したいという意思がある、こういう場合がオンライン診療のかなりよい適応だと感じています。

齊藤 クリニックに電車で来ようと思っても来れない人ということですね。

久保田 はい、そうです。

齊藤 そこで先生の説明、話をして、また処方もするのでしょうか。

久保田 処方をする場合もありますが、メインはカウンセリングになります。当院の心理士がカウンセリングをします。

齊藤 学生などでは不登校とか引きこもりもありますが、その辺も入ってきますか。

久保田 そのような方も対象となっています。

齊藤 オンラインでつながれると改善方向に向かうということでしょうか。

久保田 そうですね。もちろん、対面で来ることができるのであれば、来てもらったほうがカウンセリングもやりやすいのですが、来られないで何もできないよりは、少しでもオンラインでつながっているほうがやはり改善に持っていけますので、たいへん有用な方法だと思います。

齊藤 小児科領域で慢性疾患でオンラインでいける領域は、ほかにはどの

ようなところがありますか。

久保田 ほかには慢性疾患で漢方をのんでいる方にもいい適応になると思います。

齊藤 先生の処方の中には漢方薬も入りますか。

久保田 はい。便秘で漢方を使うこともよくあります。

齊藤 漢方もいいかもしれませんね。あと、肥満や糖尿病など代謝性疾患も場合によっては入りますか。

久保田 当院では取り扱いはないのですが、肥満はよい適応だと思います。

齊藤 さて、小児は急性疾患も多いと思いますが、その辺はどうでしょうか。

久保田 急性疾患で現在、新型コロナウイルス感染症の時限措置下で初診できるのですが、まずはお電話いただいて、当院で診られる範囲でオンラインでも問題ないと判断した場合はお受けするようにしています。

齊藤 発熱などですね。

久保田 急な発熱、初日の発熱で、呼吸状態が問題ないとか、ほかの症状があまりない場合はお受けしています。

齊藤 処方もオンラインでいくのでしょうか。

久保田 処方箋を自宅に送ったり、時限措置の今は薬局に処方箋を送って薬局に薬を配達してもらうこともできます。

齊藤 小児科でオンライン診療をこ

れからやってみようという先生がいると思うのですが、何かアドバイスはありますか。

久保田 オンライン診療は、従来型の診療に取って代わるものではなく、従来型の診療にプラスして、今までやってきた診療のクオリティレベルを上げるとか、医療が必要だったのに手が

届かなかった人に提供する手段として使うのがいいかと感じています。

齊藤 より医療の質が上がる、よりきめ細くなるための一つのツールということになりますか。

久保田 はい、そのとおりです。

齊藤 どうもありがとうございました。